



生誕100年 八木義徳の世界 ⑩

# 血と土とそして海の風から

八木義徳と作品 (1) — 『劉廣福』と『海明け』 —

第十九回芥川賞を受賞した短編『劉廣福』は、八木が出征前に遺書のもりで書いた作品である。主人公「劉廣福」は、八木が満州に赴いた際に出会った、目を奪われるほど体の大きい実在の中国人がモデルだ。

「仕方がないさ」が口癖の劉廣福に、八木は共感を覚えた。日本とは違い多民族からなる国で悠久の彼方より国名・国境が変わる幾多の歴史と、大陸的な風土に暮らす民族の背景をその言葉に感じ、北海道生まれの八木は興味と親愛の情を持つ。後に語った人間好きの八木らしい言葉がある。「彼には最初から魅かれたな。彼はみんなに後ろに押しつけられても、いつでもニコニコ笑っているもんだから、おもしろい奴だと思った。それが第一印象だった。」

体が異様に大きく役に立ちそうにもない劉廣福を雑役の工員として「わたし」は雇う。しかし彼の仕事ぶりは、外見とは裏腹に「わたし」と読者の推測を超えるものであった。ある日工場で起きた事故によって、その存在感は増していく。当時の日本企業が大陸に進出していく様子や劉廣福と「わたし」の信頼関係など、短編ながらも内容が濃く、テンポ良く進む展開は、読む者を引き込んでいく。

高校生でも読みやすい。平成22年ポプラ社が刊行した百年文庫にも作品が収められている。

八木の言葉に「私の文学は血と土とそして海の風から生まれる」があり、このコーナーのタイトルにも引用させていた。新聞連載小説『海明け』は、この言葉そのままの自伝的長編小説で、北国の自然を愛した八木の北方的感性を存分に表現した作品であり、測量山にある八木の文学碑には、この作品の一文が刻まれている。

書き出しは、剣道好きの少年が、寒稽古に家を出る夜明けから始まる。八木の人生と大いに重なるこの主人公は、後に画家を志す。幼少から室蘭を離れるまでの描写は、当時の室蘭そのままに、読む者に郷愁を感じさせ、戦前・戦中・戦後に渡る動乱の時代の中を生きる主人公とその友人らの人生は、ドラマ化もされている。

この小説の最後には、落日を目前に「これが海明けだ！ 白い流水群は無限の彼方へ消え去り海の命がいま蘇ろうとしている」の一節がある。読後には、「海明け」の背景について書かれている『風景』もぜひ読んでほしい。「それは単に流水が去って海面が明けるといふ意味ばかりでなく、きびしく憂鬱な永い冬がようやく去って、待望の春がやって来たという…」（『風景』より）三月下旬、オホーツク海は「海明け」を迎える。（協力・港の文学館）

## 人のうごき

(平成23年12月末)

人口 93,908(-38)

世帯 47,960(-4)

( )は前月比

国民健康保険料・後期高齢者医療保険料第9期

介護保険料第9期

2月29日までに納めましょう

## 編集後記



▶地球岬の初日の出を初体験、運良く太陽を拝むことができました。幸運をお裾分けしようと、家族や友人に携帯電話メールで日の出の写真を送ったが、元旦早々、有難迷惑だったかもしれないなあ。(t)

▶リニューアルした「きらん室蘭入門書」を早速購入。自然、歴史、産業からやきとり、ポルタまで、総勢62人の著者が執筆した室蘭の全てが学べる内容。価格は1000円とリーズナブル。要必見！（こな）

▶大盛況だった白鳥大橋カウントダウン。そして今年には私にとって更に重要なカウントダウンが。先日、顔写真が老けたと言われ驚愕。30歳を迎えるにあたり、気持ちだけでも新成人のつもりで臨みたい。(お)

▶誕生して早2年の「イクメン」なる言葉。優しく家庭的なパパが右にも左にも。母と子の絆を深める「ベビマ」にもついに進出。成長した子どもが育児参加したパパを見る目は、尊敬の眼差し…実体験！（ゴ）

▶1月号恒例のクロスワードパズルにたくさんの方の応募。解答と共に楽しいメッセージも多く、元気をいただいています。この場を借りて感謝申し上げます。しかし抽選は残酷。当たるとは限りませんよ。(え)

# 地域の力

## 東楽山町会



会話を楽しみながら町会総出で道路の雪かき

## 住んで良かったと思えるうちに

向こう三軒両隣。わずか19戸の町会は昔ながらの近所付き合いで仲良く生活している。年2回の大掃除や夏祭りのほか、たびたび「交流会」を開いている。現在、町会の女性だけで「女子会」の発足も計画中だ。また、高齢者は家に閉じこもりがちなので、「生涯青春」を合言葉に、少しでも外出の機会を作るよう声を掛け合い、介護予防にもつなげている。「組織が大きくなると、町会といえども目が届かなくなってくる。こは小さい町会だからこそ、心のこもった人間的交流ができています」と町会長の田村さん。今年は災害に備え、自主防災組織を立ち上げようと準備を進めている。

急な坂の上にあるこの地域は、冬になると路面が凍結し、車も上がれない状態になる。そのため除雪は、休日であれば全世帯が、平日でも仕事でいない人を除いて、町会総出で協力し合っている。全世帯の連絡網があり、雪が降ると会長の判断で連絡が回るのだ。この連絡網は非常時の緊急連絡にも使えるようになっていく。『雪で話しながら、除雪や掃除をするのが楽しいんですよ』と田村さんは言う。

毎年、総会で示される町会の基本方針は「住んで良かったと思えるまち」。この方針は十分達成されているに違いない。

## むろらん

2012年2月1日 No.971

### ■今月の表紙

室蘭岳山麓総合公園でソリ滑りを楽しむ子どもたち。休日には、たくさんのお家族連れでにぎわっています。隣のだんばラスキー場ロッジ下の斜面も人気の場所で、大人も楽しめます。ぜひ足を運んでみてください。

### ■発行・編集

北海道室蘭市市民対話課  
〒051-8511 室蘭市幸町1-2  
☎ 0143-25-2193  
☎ 0143-25-2835  
HP <http://www.city.muroran.lg.jp/>

### ■印刷

日光・福山印刷特別共同企業体